
日本教授学習心理学会

JAPTIL ニュースレター

発行: 日本教授学習心理学会 事務局

発行日: 2005年8月5日

本ニュースレターのなかみ

- 第1回年會が行われました！ (第1回年會準備委員會より)
- 第1回定時總會が行われました。 (学会事務局より)
- 理事長ほか諸役員を決めました。 (理事会より)
- 投稿原稿募集中です。 (編集委員會より)
- 研究会情報をHPに掲載します。 (学会事務局より)

➤ **第1回年會が行われました！** _____ [第1回年會準備委員會より]

さる6月25日(土)、26日(日)、東北大学において第1回年會が行われました。2日間の参加人数は78名でした。全体企画として、松木健一氏(福井大学教育地域科学部)ならびに小石川秀一氏(仙台市立松稜小学校長)により、「教授学習過程研究の課題と期待」という共通テーマのもと、2件の講演が行われ、時間超過が心配されるほどの活発な質疑が行われました。また、個人研究発表(25件)は多くの参加者により本学会ならではのと思われる議論が交わされました。

ご多忙の中、ご参加ならびにご発表いただいた会員のかたがた、ご協力ありがとうございました。

また、25日夜に行われた懇親会(参加者30名)も盛会となりました。ご参加ありがとうございました。

お知らせとお願い

年會予稿集の残部が若干ございます。個人購入2500円、機関購入4500円(いずれも送料込み)です。年會に参加できなかった会員はもちろん、所属機関等でもご購入の検討をお願いいたします。

ご希望の際は、通信欄に送付先住所氏名ならびに「第一回年會予稿集希望」とお書き添えのうえ、郵便振替口座(口座番号:02200-0-101267 加入者名:日本教授学習心理学会)までご送金ください。入金を確認次第お送りします。なお、ご希望のない限り振替入金票をもって領収書といたします。別途領収書等が必要な場合には送金時にその旨お伝えください。

➤ **第1回定時總會が行われました。** _____ [学会事務局より]

第1回年會の期間中、6月25日(土)に第1回定時總會が開かれました。参加者は全会員数の過半数に満たず、会則第19条1項(*)に基づき仮總會となりました。仮總會の決議事項は、同19条3項により、次回の機関紙で発表することになります。しかし、機関紙の次回刊行予定が12月となっており、会員の皆さんへのお知らせが遅れることから、あらかじめ本ニュースレター上でお知らせすることといたしました。なお、上記会則に基づき、決議事項に疑義がある場合には機関紙による発表後、文書による反対を受け付けることとなります。

* 会則第19条第1項 總會は全会員数の過半数をもって成立する。ただし、定足数に満たない場合は仮總會とする。

第3項 仮總會の場合は、その決議事項を機関紙に発表し、その後1ヶ月以内に会員総数の過半数が文書によって反対した時には、總會の決議としての効力を失うものとする。

会務総会（第1回）議事録（資料省略）

6月25日（土）15時30分～16時30分（東北大学）

本学会の設立準備委員長を務めた東北大学の宇野忍氏の司会により開会された。始めに議長として千葉大学の伏見陽児氏が推薦、承認された。会務総会の出席者（28名）は正会員の過半数に達しないため、仮会務総会として議事を進めることが伏見議長により確認され、議事に入った（なお、6月25日時点での会員数は100名）。

1 報告

(1) 学会設立以後の経過報告（資料1）

宇野設立準備委員長より、本学会設立の経緯および設立後の経過について報告があった。

(2) 『教授学習心理学研究』編集および刊行の報告

機関紙『教授学習心理学研究』暫定編集委員会副委員長および編集担当を務めた札幌学院大学の工藤与志文氏より創刊号（第1巻第1号）が刊行されたことが報告された。また、次号は12月刊行予定であり、本機関紙の特色に関する補足説明と投稿の呼びかけがなされた。

2 審議

(1) 2005年度事業計画および予算（資料2）

宇野設立準備委員長より提案があり、承認された。また、入会金収入や醸金収入が減少すると2006年度の予算繰りが厳しくなる旨追加説明があり、今後の課題とされた。

(2) 役員（理事および監事）の選出

宇野設立準備委員長より1)第一期は設立当初の学会活動方針の特色を維持継続し学会としての成熟を図る2)学会運営を機能的に行うの2点を考慮し、以下の理事候補者8名および監事候補者2名の推薦があり、承認された。

理事（敬称略・五十音順）

荒井 龍弥（仙台大学） 宇野 忍（東北大学） 工藤 与志文（札幌学院大学） 久米 弘（九州大学）
高垣 マユミ（鎌倉女子大学） 立木 徹（茨城キリスト教大学） 知久馬 義朗（熊本大学）
深谷 優子（東北大学） 以上8名

監事（敬称略・五十音順）

菊池 明（神奈川県綾瀬市教員） 小石川 秀一（宮城県仙台市教員） 以上2名

(3) 次期年会の開催

宇野設立準備委員長より2006年度年会の開催を茨城キリスト教大学に依頼することが提案され、承認された。

以上

➤ **理事長ほか諸役員を決めました。** _____ [理事会より]

会務総会を受け、第1回理事会を行いました。議事録の詳細は次回刊行の機関紙上にてご報告いたしますが、ここでは席上決定した事項の概要をご報告します。

1. 理事長の選出

理事長の互選が行われ、宇野理事が理事長に選出されました。

2. 編集委員会委員および事務局担当者の委嘱

設立準備委員会より1)第一期は設立当初の学会活動方針の特色を維持継続し学会としての成熟を図る2)学会運営、機関紙編集業務を機能的に行う、の2点を考慮し、推薦のあった以下の編集委員10名、事務局担当者3名を承認しました。

編集委員会委員（敬称略）

小野寺 淑行（東北大学） 工藤 与志文（札幌学院大学） 小林 好和（札幌学院大学） 作間 慎一（玉川大学） 佐藤 淳（北海学園大学） 進藤 聡彦（山梨大学） 立木 徹（茨城キリスト教大学） 伏見 陽児（千葉大学） 麻柄 啓一（早稲田大学） 舛田 弘子（札幌学院大学） 以上 10 名

事務局担当者（敬称略）

荒井 龍弥（仙台大学） 白井 秀明（東北福祉大学） 深谷 優子（東北大学） 以上 3 名

3. 学会会員の承認

年会で入会申し込みのあった 3 名を加えた 103 名を改めて会員として承認しました。

➤ **投稿原稿を募集中です。** _____ [編集委員会より]

1. 「投稿原稿」の募集

『教授学習心理学研究』編集委員会では、投稿原稿を随時募集しております。「原著論文」「実践報告」（下記を参照のこと）「意見欄への投稿」を受け付けています。次号は 12 月刊行の予定です。会員のみなさまの積極的なご投稿をお待ち申し上げます。詳しくは学会ホームページならびに学会誌をご覧ください。

2. 「実践報告」欄の創設について

本学会誌への投稿論文はこれまで「原著論文」に限定してきましたが、このたび、新たに「実践報告」を加えることになりました。本誌に掲載される「実践報告」とは、教育実践で得られた重要な事実を報告することを主目的とした論文であり、その点で「原著論文」と性質を異にするものです。「実践論文」欄を創設するに至った背景に、現職教員の会員比率が高いことがあげられます。これらの方々に様々な形で学会活動に参加していただくことが本学会の設立主旨を実現するひとつの方向であり、また学会活動を活発にしていく鍵になると考えています。しかしながら、他学会の状況をみても、学会誌は主として研究者の論文発表の場になりがちであり、現状のままでは本学会誌も同様の道をたどるものと考えざるを得ません。そこで、現職教員の方々がより参加しやすく、しかも、独自の貢献をなす場として「実践報告」欄を創設することを提案し、第 2 回理事会で承認されました。日頃の実践活動における「発見」を会員で共有する場としてご活用いただければ幸いです。詳しくは以下の「編集規定・投稿規定改訂」を参照していただきたいのですが、分量が刷り上がり 6 頁以内と「原著論文」より少なく設定してあるのは、その「短報」（ショートレポート）的性格を反映したものであるとご理解ください。

なお、「原著論文」の性格は、これまで通り「教育実践上の強い問題意識を背景に持った研究論文」という点にあり、「実践報告」欄創設によって、いささかも変更されないものであることにご留意ください。また同時に、現職教員の会員の「原著論文」投稿をさまたげるものではないことも付記します。

3. 未審査論文の掲載について

投稿規定第 1 条では「論文内容は、未公開のものに限る」とあります。しかし、大学の紀要等で公開されている未審査論文の場合であっても、データや分析方法等、新たな情報が追加されている場合は掲載をみとめることにしたらどうかという提案がなされ、第 2 回理事会で承認されました。詳しくは以下の「編集規定・投稿規定改訂」を参照してください。

4. 投稿規定・編集規定の改訂について

上記 2 および 3 にともない、投稿規定・編集規定を以下のように改訂する件について、理事会で承認されまし

たのでご報告します(下線部が改訂部分)。

編集規定

3. 本誌に原著論文、実践報告(以上まとめて論文と呼称)、投書欄、広報などの欄を設ける。

10. 教育実践で得られた重要な事実の報告を主たる目的とする論文は「実践報告」として掲載される。掲載の可否は、報告された事実が今後の教育実践あるいは教授学習心理学研究に対してなし得る貢献度を基準に編集委員会で判断する。

新規に挿入。通し番号が以下繰り上がり

11. 本誌掲載の原著論文に関する情報交換を活発におこなうために、投書欄を設け、・・・

「原著」をカット

投稿規定

1. 論文内容は、未公開のものに限る。ただし、大学の紀要等で公刊されている未審査論文の場合も、データや分析方法等、新たな情報が追加されている場合には掲載を認める。その場合には、その旨を論文の末尾に付記するとともに、原論文が掲載された紀要等1冊と原論文の抜刷ないしコピー4部提出すること。

5. 論文は、問題(目的)、方法、結果、考察(討論)、引用文献からなることを原則とする。実践報告も同様の形式を踏むことを原則とするが、必要に応じて別な形式も可とする。

6. 原著論文は刷り上がり10頁以内を原則とするが、実践方法の説明や授業記録の掲載など論文全体の理解にとって不可欠な情報を盛り込む必要がある場合には20頁まで認める。実践報告は刷り上がり6頁以内を原則とする。なお、頁の超過分に関して著者の負担を求める場合がある。

7. 投稿原稿は・・・(中略)・・・ただし、実践報告の場合は英文要約を省略することができる。

➤ **研究会情報をHPに掲載します。** [学会事務局より]

会員の皆さんが主催している既設の自主研究会の開催日程等について、学会のホームページに掲載し広報する支援を行うことが理事会で決定されました。ご希望の会員は、以下の事項を事務局(office@japtl.org)までお知らせください。

- 1 研究会名
- 2 担当者(連絡者)名および連絡先(メールアドレス等)
- 3 会の目的
- 4 開催日時
- 5 場所
- 6 出席予定者数
- 7 当日のプログラム

なお、お寄せいただいた研究会は理事会にて登録承認を経たのち、学会ホームページに記載いたします。

また、支援を受けた研究会は、開催後タイトルを含め400字以内で事務局までご報告いただくこととなります。あわせてご承知おきください。

= 編集後記 =

本ニュースレターは臨時に発行したのですが、継続発行の可能性もあるようです。会員の皆さんに時宜を外さずお知らせすべき事項はかなりあるんだな、と思っております。事務局といたしましてもできるだけ皆さんのご希望に沿うようにしたいと考えております。(荒井)

事務局の一員として仕事をこなすため、メーリングリストなるものをはじめて使おうとしたのですが、誰から来たメールで返信はどこに行くのかを理解するまでにだいぶ時間がかかりました。“時宜を外さず発行！”に向けて可能な限り力を尽くしたいと思います...少し自信ないけど。(白井)

はじめてのニュースレター、いかがでしたでしょうか。年会・総会などのご報告に加えて、今回研究会の情報提供の呼びかけをしております。会員のみなさまに本学会を研究・情報共有の場として積極的にご活用いただけるよう、事務局としてお手伝いしたいと思っております。(深谷)

本ニュースレターならびに学会事務に関するお問い合わせは office@japtl.org までお願いいたします。